

中日

朝日

東日

県内の新型コロナ感染者数 (16日現在)

市町村名	計
名古屋市	43315(+18)
一宮市	4571(+1)
瀬戸市	1565
春日井市	4103
犬山市	675(+1)
江南市	1011
小牧市	2247
稲沢市	1567
尾張旭市	954
岩倉市	693
豊明市	882(+2)
日進市	1079
清須市	927
北名古屋市	1156
長久手市	739
東郷町	520
豊山町	230
大口町	221
扶桑町	320
津島市	720
愛西市	680
弥富市	519
あま市	1349
大治町	624
蟹江町	576
飛島村	64
半田市	1529
常滑市	653
東海市	1397
大府市	951(+1)
知多市	983
阿久比町	184
東浦町	568(+1)
南知多町	184
美浜町	233
武豊町	454
岡崎市	4635(+1)
碧南市	972
刈谷市	1664
豊田市	4996(+1)
安城市	1947(+1)
西尾市	2406(+1)
知立市	980
高浜市	603
みよし市	706(+1)
幸田町	489
豊橋市	4665(+4)
豊川市	1776
蒲都市	840
新城市	278
田原市	343
設楽町	7
東栄町	10
豊根村	1
尾張地方	12
三河地方	5
県外	536
合計	106314(+33)

※県などの発表(速報値)に基づき、居住地別に計上。自治体は県のホームページ記載順。○内は前日からの増加。尾張地方、三河地方は、県が自治体名を頭からしなかつた昨年3月上旬までの分。

自・前に立共新顔挑む

自民前職の今枝宗一郎は、広い14区の全市町村で2回続けて得票1位。野党共闘は成立せず、「自民党

14区

今枝宗一郎37自前③(元財務政務官)
田中 克典47立新 (元衆院議員秘書)
安間 寛子53共新 豊川市議

の若手改革派と医師の視点でのコロナ対策を掲げ、盤石の4選を狙う。立憲新顔の田中克典は2

回目の挑戦。秘書で仕えた元総務副大臣の鈴木克昌から公示直前に後継指名された前回は知名度不足が響いたが、バイクで4年間、選挙区を回り顔を売った。

共産新顔の安間寛子は、旧一宮町議を含めて議員歴22年半。核廃絶や奥三河地方の過疎地の医療維持とともに、社会全体で子育てできる環境づくりを訴える。

ヒカロープでイルミ作りを！
海の生き物モチーフに蒲郡で参加者を募集

海・みなど・蒲郡実行委員会(小田泰久実行委員長)は、光るロープ「ヒカロープ」を使って海の生き物をデザインするイルミネーション作りの参加者を募っている。

会場は蒲郡市生命(いのち)の海科

学館。11月7日に計2回行い、午前の部は午前10時～11時30分、午後の部は午後2時～3時30分。日本財団が支援する「海と日本プロジェクト」の一環。ヒカロープは、市内の三栄製綱が海水作業用に製造している。

無料で参加できる。対象は小学生とその保護者。定員は各部4組(1組2人まで)。申し込みは市ホームページで24日まで受け付けている。応募多数の場合は抽選で決める。

問い合わせは、事務局(市企画政策課内) 電話0533(66) 11621まで。

東愛知

前蒲郡市立蒲郡中学校長 鈴木 洋



「クレイジー(crazy)」数年前、中学生を引率してオーストラリア(豪州)の学校を訪問した。現地の教職員に日本の先生の働きぶりを紹介したときに、豪州の教職員が「皆が一斉に目を白黒させた。驚きの声を出した言葉だ。二十年ほど前にアメリカ西海岸の学校を訪問したときにも、日本の先生の働きぶりを話すと、同じ返答だったの思い出した。

直近の二年前、ヨーロッパを旅したとき、日本人でベルギー在住の現地ガイドさんからも、「日本の先生方の働き様は欧州ではあり得ません」と、欧州の学校や教員の生活事情と、欧州の子どもの学校と学校外での生活を、ベルギーで子育てした実体験から解説してくれた。

欧米や豪州の小中学校では、十四時から十五時には子どもたちは下校し、その後一般のクラブ活動や習い事や自分の時間を上手に使って過ごす。先生方も子ども下校後に手際よく残務を済ませ、速やかに帰宅する。教職員も家庭や余暇や自分磨きの時間を大切に。日本のように先生が、「子どものために」と、夜遅くまで学校で勤務している

学校改革への提言(二十二) 働き方改革(1)

「クレイジー」なのだ。日本では、かつてから真面目に実直に長時間会社や組織に尽くすことが美徳とされてきた。「二十四時間働けますか」という文言が流行した時代もあった。「クレイジー」な働き方が美徳で、良き人材として評価されてきた時代だ。

ようやく世の中で、「過労死」や「心の病」が取りあげられ、異常な働きぶりに待たがなかったが、学校現場だけは、未だに「ブラックのまま。働き方改革が最も遅れている職場だ。「クレイジー」と世間から言われても、「子どものために」という強烈的な美徳文言でやり遂げる教職員ばかり。

実際のところ、子どもの指導が大好きで子どものために時間を厭わない先生が多い。子どもへの指導に憧れて先生になって、懸命に働いて満足している先生も多いのだ。また、文科省や教育委員会が示す「指導や配慮すべきこと」「求めること」も実に多い。また世間から「求められていること」も膨大だ。真つ当に通常の業務をこなせば、絶対に勤務時間の中で収まることなどないのが現実。

さりとて、先生が健康を害してはいけないし、先生にも私生活がある。働き方改革は大切。次回この続きを記す。